

# 令和4年度全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 竹末 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数、理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語、算数、理科)

教科に関する調査(国語、算数、理科)
①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

### 3. 教科に関する調査結果の概要

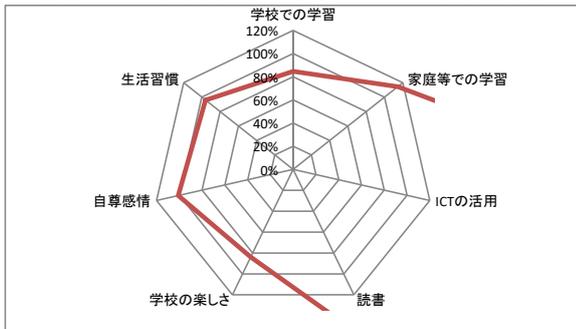
#### (1) 全国・本市の学力調査(国語、算数、理科)の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	9.8	61	10.4	61
全国	9.2	66	10.1	63	10.8	63

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	全体的には、全国平均より上回っている。「選択式」や「短答式」は比較的良好にできているが、「記述式」の問題形式において、かなり全国平均を下回っている。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことを中心に捉える問題。登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉える問題。	
	努力が必要な問題	互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめる問題。文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける問題。	
算数	全体的な傾向や特徴など	全体的に全国平均より下回っており、特に、図形領域と変化と関係の領域において正答率が低い。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	被乗数に空位のある整数の乗法の計算。図形を構成する要素に着目して、長方形の意味や性質、構成の仕方についての問題。	
	努力が必要な問題	示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察する問題。示された場面のように、数量が変わっても割合は変わらない問題。	
理科	全体的な傾向や特徴など	全体的に全国平均よりやや下回っているが、生き物、生命に関する問題については、正答率が比較的高い。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	昆虫の体のつくりや、カブトムシの育ち方や食べ物に関する問題。	
	努力が必要な問題	器具の名前に関する問題。 光の性質に関する問題。	

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画的に家庭学習をしている割合は多いが、SNSや動画視聴の時間も比較的長い。</li> <li>・読書時間については、全国平均を大きく上回っている。</li> <li>・学校での学習については、自分の意見をまとめ、相手に工夫して伝えることや、さらに自分の考えを深めていくことができていると考える児童が多い。</li> <li>・「自分には良いところがある。」と考える児童の割合は、全国に比べると低い。自尊感情を高めるためのさらなる取り組みが必要である。</li> </ul>

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組

- ・学力向上、学力定着のための特設時間「**竹末タイム**」の実施(朝の15分間、音読、視写、国語算数のスキル学習、等)
- ・授業のユニバーサルデザイン化(焦点化・視覚化・共有化)を図る。
- ・コグトレを行い、個々の認知機能の不十分な点を強化する。
- ・ホワイトボードやタブレット等を使って、意見を伝え合ったり深めたりする活動を仕組んでいく。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・家庭学習の習慣化や充実のために行っている「**家庭学習強化週間**」の取組を続けていく。
- ・SNSや動画視聴など、家庭で時間を決めて生活の中に取り入れていくなど家庭学習等とのバランスを考えるよう指導する。
- ・学校と家庭で連携して、児童が自分のよいところに気づき、自信をもてるように声掛けに努めていく。
- ・家庭との連携を密にするため、全家庭に伝えたいことは、学校便り、学年通信、家庭へのメール配信等でつたえるようにする。